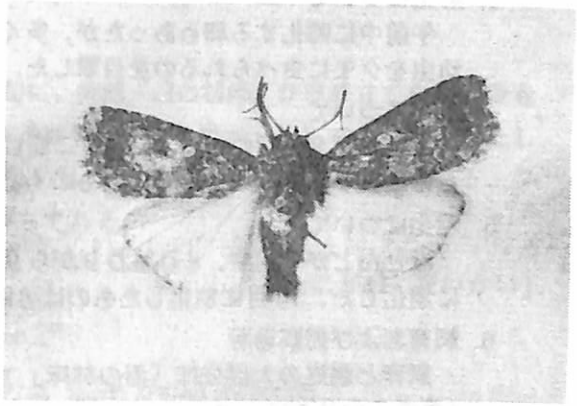
今まで本土域で採集されたことはなく，主として沖縄本島以南に記録あり．杉繁郎氏に同定していただいた．



南淡町大川産クシナシスジキリヨトウ

（ふじひら　あきら）

クロコノマチョウについて

谷川大海[4]

筆者は 1994 年 7 月 28 日より 10 月 28 日までクロコノマチョウの生態の一部を観察（飼育も含む）したので，ここに報告する．

1. 飼育について

①一回目の飼育

7 月 28 日に捕らえた母蝶から（7 月 28 日から 31 日の 4 日間で）108 卵を得，107 卵が孵化，58 頭が羽化した（うち♂26 頭，♀32 頭）．型は夏型が 22 頭，秋型が 30 頭，中間型が 6 頭であった．中間型とは夏型から秋型への移行型と思われるもので夏型と秋型の両方の特徴を持っている．しかし越冬母蝶からの第一化の飼育がまだで，第一化夏型との比較が出来ていない．従って中間型と断定するのは今後の課題とする．羽化した成虫 58 頭はすべてマーキングして「沼の林床」に放蝶した．

②二回目の飼育

「沼の林床」で産卵を目撃して得た卵，及びすでに産みつけられていた卵からの飼育．「沼の林床」で袋がけ飼育をした．産卵日は卵や齢数から推測したものを含めて，8 月 22 日から 10 月 2 日まで数日おきであった．全部で 24 頭羽化（すべて秋型），そのうち 9 頭をマーキングして放蝶，他は標本にした．

2. 産卵行動について

産卵を目撃したのは三回（一回目は袋がけ産卵の時，二回目はマーキングして放蝶した母蝶の産卵，三回目は自然状態での産卵）．袋がけ産卵で一度だけ早朝（8 時半）に産卵したことがあった．しかし，他はすべて夕刻（5 時～6 時）であった．また自然状態ですでに産みつけられていた卵も，卵の色などから推測して夕刻に産みつけられたようである．食草はジュズダマ，ケイヌビエ，ヨシの三種（昨年はススキでも見られた）．いずれも林床内で育った若々しい，緑色の，柔らかい葉に産卵．まず葉表に止まり，すぐくるりと葉裏に逆さになり産卵．卵数は 1 卵から 2～10 卵の群卵が見られた．

4: 〒656 洲本市大野 1018-2

3. 孵化について

午前中に孵化する卵もあったが，多くは夕刻に孵化した．孵化したばかりの一齢幼虫をクモに食べられるのを目撃した．

4. 蛹化について

大多数は夕刻行われた．しかし二回目の飼育の時，後半（10月下旬）に蛹化したものは丸2日かかって完了したものもあった．

5. 羽化について

ほとんどが午前中．8月終わりから9月初めに羽化したものは5時台から8時台に羽化した．10月に羽化したものは6時台から10時台まで見られた．

6. 飼育および観察場所

飼育と観察の大部分は「沼の林床」で行った．他は飼育箱で行った．「沼の林床」（筆者の命名）は（洲本市池の内にある）直径約100mの池の3分の1を占める沼状の場所．6月には冠水するが8月になると水はひく．樹木の主なものはハンノキ，ヤナギ類，下草はヨシ，ジュズダマ，セリ，ミゾソバ，ケイヌビエ，ススキなどである．盛夏の林床は涼しくクロコノマチョウをはじめ，コムラサキ，キマダラヒカゲ，クロヒカゲ，ウスイロコノマチョウなどが見られる．

7. テリトリー飛翔および追尾飛翔について

「沼の林床」内で，日没直後から約30分間見られた．9月9日から10月3日までの間で，林床内の気温が20度以上の日に見られた．18度以下の日には見られなかった．放蝶した個体にはマーキングをしたが，観察に行くたびごとに見つけた自然状態の個体も捕らえてマーキングをしておいた．テリトリー飛翔，追尾飛翔の行われた場所は半径8m内で狭いものであった．枯木やヨシ，セイタカアワダチソウの葉上に止まり，1頭が飛び立つと数頭が絡み合うといった具合いだった．日中のフワフワとした飛び方からは想像もできない素早い動きで，卍巴と思われるような追尾飛翔も目撃した．ほとんどが放蝶した個体だったが，何頭かは自然状態の個体もいた．夏型も秋型も見られた．夏型の個体の方が小さいからか，動きが早く，いつも追尾飛翔では勝っていた．これらの飛翔中に♀を目撃したことはなかった（♀の産卵を目撃したのは，いずれも，これらの飛翔の前であった）早朝（6時から8時）にも観察に行ったが，夕刻のような飛翔は見られなかった．数頭目撃できたが，林床内を歩いて行くとフワフワと飛んで逃げるといった具合いであった．

8. 吸蜜行動について

9月26日には1頭，10月13日には2頭，それぞれ夕刻「沼の林床」内のヤナギの木でスズメバチと一緒に吸蜜しているところを目撃した．また10月27日と10月28日には8頭から11頭もの成虫が樹液を吸っていたようで，林床にはいると驚いて飛び立った（マーキング番号と頭数を確認できた）．

9. 配偶行動および交尾について

残念ながらまだ目撃していない．

10. 成虫の大きさについて

飼育成虫の翅の長さ（横幅）を比較してみた．羽化月別で比較する．10頭の平均値で，♂も♀も同じ傾向だった．10月羽化が一番長く，ついで（8－9）月羽化，11月羽化の順であった．

11. 食草について

このたびの観察でケイヌビエとヨシも食草にしていることが判明した．この二つの食草については，飼育および観察例が少ない．四種の食草のうちではジュズダマが一番よく利用されるようで，自然状態で発見した卵数もジュズダマが一番多かっ

た．また飼育でもジュズダマを使うと幼虫期間が一番短く，飼育もスムーズだった．

おわりに

これらの観察が終わりに近づいた11月初旬に，突然「沼の林床」が埋め立てられて姿を消してしまった．昨年，近くの農夫に，この池はもはや「ため池」としての機能を果たしていないので，いずれは埋め立てられると聞いていた．筆者にとっては大打撃である．クロコノマチョウの観察に最適の場所だったからである．

（たにがわ　だいかい）

イッシキガガンボモドキの♂を採集

登日邦明[5]

筆者は先に本種（*B. issiki*）の採集記録を発表したが（本誌 No.39），いずれも♀の個体であった．

その後本年（'95）7月8日に，津名町大町畑（Tsuna Omachi Hata）で灯火に飛来した♂の個体を採集し，上付器先端の形態から本種に間違いないと思われるので記録しておきたい．標本は NSI に保管されている．

（とび　くにあき）

編集後記

▽ '95年度の1号目をお届けします．春先に発行する予定でしたが，1月17日の兵庫県南部大地震で編集子の家屋や施設もかなりの被害を受け，1部解体修理を余儀なくされたこともあり，大幅に遅れてしまいました．

▽ 本年度の会費も2000円です．同封の振替用紙で早めにお願いします．次号は年末に発行の予定です．

(TB)

PARNASSIUS *No.42*

1995年7月21日印刷　　1995年7月27日発行

編集者 登日邦明　　発行所 淡路昆虫研究会

〒656-21 兵庫県津名郡津名町大町畑235

郵便振替 01170-3-49591

印刷所 れいめい社

〒654 兵庫県神戸市本町5丁目1-24

5 〒656-21 兵庫県津名郡津名町大町畑235